

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・2年

氏名: 黒木 俊太郎

授業科目名	海外森林・林業事情
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先では多くの体験や景色から多くの学びをさせていただきました。ドイツと日本の森林の違いに関しては、気候や地形等の環境の違いから、そこで適した樹種、競争関係、鳥獣被害、現場での取り組み、森林に対する人間の考え方で、わざわざ森林内に赴き、隅々教えていただきました。ドイツの森林を実際に目にすることで明確な刺激を受け、疑問を持ち、理解するというプロセスを踏み、とても有意義な時間になりました。日本、鹿児島の森林しか知らない固定観念を改め、広い視野で森林に向き合い、適切かつ新鮮な目線で今後、研究に取り組んでいきたいと思えます。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>個人的にも初の海外経験ということもあり、今回の研修では多くの新鮮な体験をさせていただきました。気候や文化、環境ががらりと変わった世界に身を置き、自身の視野の狭さを知ると同時に、他の世界を知ることがどれだけ面白く、心が動かされるものなのかを自分の目で見る事が出来ました。もうひとつ感じたものは、この研修は多くの人の協力があって充実したものになったということの感謝を忘れてはならないということです。様々な興味深いプレゼンテーションの用意や、移動の手配、普通なら見ることがかなわない森林現場での作業の準備等をしていただき、貴重な体験をさせていただいたことには感謝してもきれません。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前後で自身の考え方を大きく変えたものは、疑問を素直に持ち、表現する大切さです。極端に言えばこの研修では、周りを見れば疑問しかない環境でした。なぜ樹木がこんなに高いのか、なぜ森林に入るとびっぴりが必要なのか。数え切れない疑問があるなか、自分はその疑問たちを問うことに多少の恥ずかしさや、面倒さを持つことができました。そこで、促されながらではありますが一つの疑問を先生に問いかけました。素朴に素直な質問ではありましたが、その森林を語る中でとても重要なことでした。そこで、自分が抱いた疑問を素直に受け止め、表現しなければここで得られる貴重な体験を無駄にしてしまうと気づき考えを改める機会になりました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修で学んだこと、感じたことなどを上述してきましたが、私の人生の大きなターニングポイントになったことは間違いのないことです。今後、私がどのような場所で、どのように生きていくとしても、この場で学んだ幅広い視野と素直な気持ちで物事に取り組んでいくことが出来たら、おのずと良い結果がついてきてくれると信じています。恐らく社会に出て初めてのころは自分のことで精いっぱいになってしまうかもしれませんが、ゆくゆくは社会全体のことを考え、選択、行動することが出来る人間になって、今回の研修では多く助けられていた立場でしたが、自分から人に手を差し伸べられる技量と勇気を身につけていきたいと思えます。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・2年

氏名: 池田希

授業科目名	海外森林・林業事情
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>主にドイツ(バーデン＝ヴュルテンベルク州)の林業経営、林分状況、林業の視点からの気候変動に対する取り組みについて学習した。この研修前では、単に、林業先進国と言われているドイツの林業経営を日本に取り入れることができればいいと考えていた。しかし、研修を通して、シュバルツバルトやロッテンブルク林業大学の演習林などで行われている林業経営や森林の状況を実際に見て、当然のことであるが、前述したことは最適な方法ではないのではないかと考えた。ドイツの林業経営で技術的にも考え方的にも、優れているところを日本の林業向けにアレンジさせていくことが必要なのではないかと考えた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ドイツでは森林管理と狩猟が不可分の関係にある。狩猟の中でも猟犬について印象が大きかった。先生、学生に関わらず、自身が飼っている犬を講義に連れてきたり、先生は子供を同伴させたりしていた。この様子を見て、はじめは、公私混同のようなイメージを持ち、日本と違う光景に少し戸惑ったが、自分の身近な人やものを大切にしているのだというように感じた。また、ドイツの飼い犬はとてもよく躡けられていて、飼い主の指示にしっかりと従い、飼い主も犬に対して人間の家族と同じような感覚で接していて、飼い主と犬との互いの強い信頼関係が感じ取れた。そのようなことから、狩猟において動物をなるべく苦しめずに捕らえるという動物に対する考え方が日本と異なることがわかった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>何事にも興味を持って、深く考え、疑問に思ったことは質問するようになった。多言語での説明のもとで聞き取りを行うことは、やはり、説明に対して疑問が湧く、という以前に語彙力不足により理解できないことがあった。その時は、日本人同士で確認し合ったり、ロッテンブルク林業大学の先生に質問したりした。そして、疑問に思っただけで質問をすることが恥ずかしいと思わなくなった。むしろ、先生方から日本の状況を聞かれたり、質問を投げかけられたりする場面が多かった。情報を共有したり、互いの知らないことを教え合ったりすることが楽しいと思えるようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今後、異国で得られた発見や、考え方の違い、習慣の違いはもちろん、異国の地とのネットワークを作ること、そこで誰かと話してみることの喜びと楽しさを、鹿児島大学に在学している学生、これから入学してくる学生に発信していきたい。農林業に関わる学生だけでなく、他分野を学んでいる人にも発信することができればいいと思う。また、今回ドイツを訪れたが、現地の方々と、さらに良い関係を築いていくため、さらにその国について知るために英語に加えてプラスアルファの言語、ドイツ語の勉強に励む。そして、鹿児島大学とロッテンブルク林業大学を結ぶ架け橋の一人になりたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・1年

氏名: 二神慶多

授業科目名	海外森林・林業事情
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>ドイツにおける森林施業の特徴や森林に関する様々なことについて学習することができた。ドイツでは生態系を守るために森林を管理すること、気候変動に対してどのようにアプローチしていくのかということについて、日本より強い意識を持っていると感じた。</p> <p>保安林に関しては、原生林の状態にできるだけ近づけるようにしていて、倒木も除去せずにそのままの状態に保っておりとても迫力があつた。</p> <p>また、ある木を質のいい木にしたいと考えるときに、どのように施業すればいいのかという問いに対して、樹木の配置など細かいことにもしっかりと理由があることが理解できた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>外国に行くことが初めてだったので、海外の文化や生活は非常に楽しみにしていた。ドイツではお店に入るときと出るときは店員と挨拶をする文化があり、私も同じように挨拶をすることでわずかながらドイツの文化に触れることができた。その時に、現地の人にドイツ語や英語で会話をすることはとても貴重な経験になった。また、レストランで食事をしているとき、周りの人が声をかけてくれて、自分がその地域では珍しい外国人であると認識させられた。日本で日本人として生活していると、絶対に経験できないようなことを体験することができた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>ドイツでは森林内は私有林でも自由に立ち入ることができる。実際に、講義の最中に森林内に散歩に来られた人も多くいた。林道でも散歩をする人がいるので、施業をする際は看板などを立てたりして対策をするそうだ。私もドイツの森を歩いたが、整備された道が多くとても歩きやすかった。</p> <p>また、研修先のロッテンブルグ林業大学に在学している日本の方に、キャンパス内のおすすめの散歩コースを案内してもらったが、景色がとても良くて感動した。研修前は、なぜそこまでして森林の中を歩くのだろうと疑問に思っていたが、実際に歩いてみてその理由に頷けた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>私は、林業従事者ではない一般の人と森林との距離をもっと近づけていけるようにしたいと思っている。地方では、林業を含めた第一次産業が主要な産業である。そのような場所で、子どもから高齢者までだれでも森林と触れ合える機会を作り出すことで、自然保護や気候変動への関心も高まるのではないかと期待できる。</p> <p>ドイツでは、森林施業を行う一方で、住民は週末に森林内を散歩し、犬を連れてハンティングを行うなど、森林が生活の一部に深いかかわりを持っている。日本でも木材生産機能を最大限発揮しつつ、住民の憩いの場となるような森林づくりが必要だと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・1年

氏名: 上野 綾

授業科目名	海外森林・林業事情
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修では、バーデン＝ビュルテンベルグ州ロッテンブルク林業大学の先生方をはじめ、現地のフォレスターや林業従事者の方々から、主に州有林を対象とした森林管理や林産物生産、また国立公園における野生鳥獣の保護管理など、ドイツの森林・林業に関する状況や考え方を、講義だけでなく実際の現場も案内してもらいながら学習した。</p> <p>日本以外の国の林業の現状を目にしたのは初めてであったが、森林状態から管理手法まで全く異なっており、大きな衝撃を受けた。最も感銘を受けたのは、ドイツの林業が、経済的側面だけでなく環境保護や地域社会など社会的側面にも貢献した上で、しっかりと産業としての高い地位を保持している事である。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>滞在したバーデン＝ビュルテンベルグ州中部のロッテンブルクでは、街の至る所に、古くからの歴史の名残を感じられる建造物や跡地が残されており、昔の人々の暮らしまで思い描くことができた。</p> <p>また、ドイツの暮らしで興味深かったのは、このコロナ禍での生活スタイルである。室外で日本のようにマスクを装着している人は全くおらず、代わりに鉄道など公共交通機関を利用する際は医療用の規格を通ったマスクを必ず付けていた。また、交通事情も面白くて、高速ではない一般道の制限速度が100km/hという日本では有り得ない標識がある一方で、市街中心部は制限速度30km/hなど、制限の幅が極端だった。こうした事から私が感じたのは、ドイツの効率至上主義的生活だ。ONとOFFが明確に示されており、非常に効率良く社会経済が回っている。こうした側面は森林産業にも現れており、非常に先進的な産業形態の根源に気付けた気がする。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は以前、海外へ滞在していた時期があり、その時のネガティブな体験が未だに自分の中で色濃く残っていた為、今回久しぶりの海外渡航に少し恐怖を感じていた。人種差別や、言語の壁、治安情勢など、さまざまな不安から、日本を離れ、言語や国民性も全く違うコミュニティへ飛び込む事に、臆病になっていた。しかし、今回のドイツ研修を終えて、心に残ったのは「もっと知りたい・感じたい」という感情だった。それほど研修中の経験は日本にいただけでは知り得なかった事ばかりで、研修前に感じていた懸念などどうでも良くなってしまふほど、どれも刺激的で、毎日心が躍って仕方がなかった。研修中に引率の寺岡教授がおっしゃった「発想力は移動距離に比例する」という言葉が、研修を終えた今とても印象に残っている。この研修が、リスクに対する恐れよりも“その先にある学びを楽しめる”人間へと私を近づけてくれた気がする。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>この海外研修プログラムを通して、私が携わってきた森林・林業の世界の常識は、地球上におけるほんの一部の事例に過ぎないのだということを痛感した。地域社会の発展に寄与するためには、地域内だけに閉じこもって課題解決や将来予測を立てるのではなく、より先進的な事例や外の世界を鑑みたくて、自分達を客観的に分析していくことが大きな発展への近道だと考える。そのためにも、私は今後、自分の知る地域の森林産業のみに捉われず、日本国内はもちろん海外での現状にも興味関心を広げ、さらなる学習を積み重ねていきたい。今後の目標については、日本の林業をドイツのように効率的で社会的にも地位の高い産業として変革させるべく、素材生産業の効率化・黒字化を目指した、スマート林業・林業のDX化についての研究と探求学習を深めていきたい。</p>	